

## 《教育長メッセージ 第30号》

### 『新学期』

4月5日（火）、市内の小中学校19校で新学期がスタートしました。

（今年から、小学校の入学式は、始業式の次の日となっており、小学校第一学年は6日からスタートとしました。）



子どもたちの第一学期始業式の最大の関心事は、何組になって、誰と同じクラスになって、担任は誰かということです。

クラス編成は、登校すると発表されます。（各学校でその方法は異なりますが）担任は、始業式で校長が発表します。子どもたちは、悲喜こもごもですが、教職員にとっても同様だったりするのです。

大人の社会でも、人事異動等があり、そこにどんな出会いがあるかは、時には、生き方を左右することもあります。ただ、それ以上に、その出会いをどう受け止めるかが大切であると、私は思うのですが。

さて、新学期の子どもたちの心持ちは、どうなのでしょう。

不安の中にも、前向きな「がんばろう！」という気持ちでいっぱいであると、私は思っています。

実は、子どもたちには、自然と、自ら、自分をよりよくしようとする意思が働くのです。

特に、新学期にはそれが大きく表れます。

「学校に行ったら。」

「2年生になったら。」

「中学校に行ったら。」

・・・。

子どもたちは、みんな、そんな思いで新学期を迎えるのです。

それでは、子どもたちにかかわるすべての大人たちが、新学期にやるべきことはなんでしょう。

私は、「がんばろう！」という気持ちを優しく包み込んで、大きくふくらませることだと思っています。

新学期、学校は新たな息吹に生き生きと生まれ変わります。

そんな中で、子どもたちの思いが大きくふくらむことを、私は願っています。

みんなで、子どもたちを応援しましょう。

次回は、『春』について、私の気持ちを述べてみたいと思います。